

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(23)—

東京支店 神原 勇

ホンサバ

分類 スズキ目 サバ亜目 サバ科

学名 *Scomber Ponicus*

英名 Mackerel

和名 マサバ・ヒラサバ

大衆魚として最も馴じみ深く親しまれていて、日常の食膳を賑わしているサバにはホンサバ(マサバ)とゴマサバ(マルサバ)の2種類がある。1972年の統計によれば日本の水産物の総漁獲量の927万トンのうち134万トンがサバによって占められ、そのうちホンサバは100万トンであるので総漁獲量の1割強にあたり重要水産物であると共に経済的な惣菜魚として大きくクローズアップされてきた。

日本近海では北はサハリン(樺太)から南の九州迄日本列島を取り囲むように分布し、本州中部以北の冷水域に多い。他の魚類の体型の表現にサバ型と呼ばれるように、最も典型的な紡錘型で、背鰭は2つ、背鰭及シリ鰭と尾鰭との間に各5つづつの離鰭がある。体色は背部から側面にかけて青黒色の不規則な斑紋があり、腹部は白銀色である。

伊豆半島南端にある石廊崎から南方40海里のところに銭州と呼ばれる瀬があるが、この周辺がサバの産卵場となっている。この附近海域は黒潮の流れがこの瀬にあたり海底から潮が湧き上げてきて三角波が砕け散り漁船の航海の難所でもある。海底から湧き上る潮流(湧昇流)のため海底の栄養塩類及底棲小動物(ベントス)が表層にまで浮き上るので各種の魚類が集まり好漁場が形成される。

3~5月の産卵期が近づくとホンサバはこの銭州に集結する。抱卵数は魚体の大きさにより10~140万粒で、産卵は数日に分けて行なわれる。受精卵は表層を漂いながら黒潮によって東方へ移動し乍ら2~4日で孵化する。孵化してその年の暮には体長19cm、翌年の夏には28cmの成魚となり北方へ回遊を始め、三陸沖や北海道沖で3才以上の成魚と合流する。

三陸沖は北上する黒潮と南下する親潮とがぶっかかり合い数多くの潮目が形成され、ホンサバはこの潮目の暖水塊の周辺を好んで分布する。この海域にはユーフアウシヤ(オキアミ類)、カラスス(桃脚類)、テミスト(端脚類)等の冷水性の動物性プランクトンが豊富であるので、これらを貪り食べてぐんぐん大きくなる。この海域で丸々と太ったホンサバは11~12月にかけて南下を開始し銭州の産卵場へと向う。ホンサバは北上して北の海で成長し、南下して産卵するという索餌・産卵・回遊を毎年繰り返す。

寿命は6~7年で各年令別の体長は次の如くである。

6ヶ月 2才 3才 4才 5才 6才
19cm 28cm 32cm 35cm 37cm 39cm

ホンサバは遊泳力が強く大きな群をつくるので漁法としては専ら旋網が用いられる。産卵場では生態的に索餌回遊群と異なるので、ハネ釣りが用いられる。近年銭州漁場にソ連サバ船団が押寄せ日本国内では禁止されている旋網漁法で漁獲しているので、資源保護上憂うべき大問題である。

ホンサバ

分類 : スズキ目 サバ科

学名 : *Pneumatophorus japonicus*

英名 : Mackerel

和名 : サバ・ホンサバ・ヒラサバ

樺太、朝鮮からハワイ、カリフォルニア、アフリカ=分布し、冷水域、陸岸近クノ海域に生息。スルガ湾内へ侵入するモアル。表層より深ミノ水温10~20℃、清澄ナル水帯、ウチ、15~16℃が最適水温ナル。産卵期ハ産卵期沖デハ2~4月、房総沖デハ4~5月ガアルカ、コノ時期ハ北ノ水成ヘト大回遊ヲシテ9~10月ハ再び南方ヘト移動シテ冬期水深200m内外ノ深クテ越冬スル。食餌ハイソノ幼魚、小魚、甲殻類等。オノハ脂肪=満ケ眼球ハ乳白色、不透明トシ、相嘗ニ美味ナル。



韓国 -1962-



ブルガリア -1969-



日本 -1966-



北朝鮮 -1961-



アルバニア -1964-